

お薬手帳を日頃からご使用いただくことが、
災害時に活用できる秘訣です

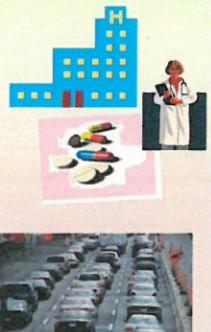


徳島県

東日本大震災時における「お薬手帳」の活用事例

【東日本大震災の被災地の状況】

- 津波により 医療機関・薬局そのものも、カルテ・薬歴も 失われている
- 医療スタッフが 短期間で 交代する
- 薬の量、種類が乏しいため 頻回に 処方される薬が 変更になる
- 在庫される薬の 種類や 規格が 頻繁に変わる
- 直接的な被災地でなく 通常の医療体制がある場合でも、交通手段が無いために（ガソリン不足）いつも通っている医療機関を 受診できない



「お薬手帳」が活用された主な場面と事例

①[医師]

お薬手帳を持参いただいたため、治療中の病名のみならず履歴を見ることで概ねのコントロール状況 などが想像でき 病状把握に役立った。

②[薬剤師]

薬の在庫の関係もあり7日単位で処方され、同効薬（ジェネリック医薬品等）への変更が頻繁に行われ、患者さんが前回と何が変わったのかの確認手段は、お薬手帳しかありませんでした。

医師は他院の患者を診察するのにカルテ・薬歴がない中、お薬手帳だけが情報源となっていました。

③[被災された方]

支援活動としてではなく、被災者（岩手県）家族としての体験

□義 母：高血圧、不整脈。薬手帳をもって避難。避難所でも、その後暮らした新潟県でも、同じ薬を処方していただけたため、体調を崩すことがなかった。
(不整脈のコントロールが難しく、現在の薬になるまで度々薬を変更していたため、同じ薬の処方が必要だった。)

□義伯母：高血圧症。薬手帳はもたずに避難

薬名も覚えておらず、血圧の薬、胃薬、血がサラサラになる薬—と言って、避難所で降圧剤等の処方を受けた。
循環器専門医を受診し、内服薬を変更してもらってなかなか血圧が安定しない。
収縮期血圧200 前後が続いた。



「お薬手帳」を活用しましょう Ⅱ



- 「お薬手帳」とは、あなたが使っている薬に関する記録をつけておくための手帳です。
- 自分の使っている薬や、薬によるアレルギー経験を正確に知り、医師 や 薬剤師に伝えることは とても大切なことです。

お薬手帳とは

- 病院や薬局で調剤された薬の名前、服用量などの **履歴を残すための手帳** です。
- この履歴を見ると、次のことを医師、薬剤師が判断できます。
 - ☞ どのような薬を服用しているのか
 - ☞ 同じ成分の薬が重複していないか
 - ☞ 新たに調剤された薬との飲み合わせが悪くないか



使い方

- **病院や薬局へ行った** 医師や薬剤師に見せてください。
 - お薬手帳は、必ず **1冊** に まとめてください。
 - **調剤された薬** や、**店頭で購入した薬** を書き留めてください。
 - **災害時** の持ち出しリストに **お薬手帳** を追加してください。
- 《 **防水対策** として **ビニルカバー** 等を推奨 》

徳島県 災害時 医薬品の供給等に係る 協定等の締結状況

「災害時に必要な医薬品等の確保に関する協定」

(徳島県医薬品卸業協会 平成8年9月)

「災害時における薬剤師の医療救護活動に関する協定」

(一般社団法人徳島県薬剤師会 平成19年2月)

「災害時における医薬品の調達マニュアル」

(徳島県製薬協会 平成20年2月)

「災害時における医療ガス等の供給に関する協定」

(一般社団法人日本産業・医療ガス協会
四国地域本部医療ガス部門徳島県支部 平成19年2月)

「災害時業務コーディネーターの配置 平成24年」

(徳島県薬剤師会・徳島県病院薬剤師会・徳島県)

災害時の医薬品供給のながれ

被災地



支援要請



調整

備蓄医薬



支援要請

